

カトリック仙台司教区・ **カリタスジャパン** 東日本大震災救援・復興活動ニュースレター

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座:02260-9-2305
名義:カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座:00170-5-95979
名義:カリタスジャパン

NPO法人「カリタス釜石」が、本格的な活動を開始するために、事務所、厨房などの建物が完成し、オープンハウスをいたしました。また、CTVCカリタス原町ベースが、開所2周年を迎えました。カトリック大船渡教会を本拠地に活動していた、仙台教区滞日外国人支援センターが石巻へ事務所を移転し、活動を開始しました。それぞれが新しい歩みの第1歩を踏み出しました。その様子をご紹介します。

特定非営利活動法人カリタス釜石 オープンハウス 仙台教区サポートセンター 濱山 麻子

6月7日、私たちの仲間「カリタス釜石」で、地域の皆さんをお招きして、新しい建物のオープンハウスが行われました。サポートセンターからもスタッフ3名でお邪魔しました。



← 写真奥が、カリタス釜石の新しい建物

カリタス釜石の始まりは、震災直後の2011年3月15日、カトリック釜石教会と遠野教会の有志の方々による炊き出しからスタートしました。当初は釜石教会の敷地内に津波によるがれきが散乱し、それを片づけながらの活動でした。その後4月2日に「釜石ベース」が設置され、全国から集まってくださったたくさんのボランティアさんと共に活動を続けてきました。2013年3月にはNPO法人の認証を受け、「カリタス釜石」として独立しました。これまでボランティアさんの宿泊所、事務室はずっと教会の司祭館を使わせていただいていたが、この先も長く活動を続けていくため、この度、教会の隣に新しく活動拠点を作ることになったのです。

新しい建物には1階に厨房を備えた食堂、会議室、2階に事務室とボランティアさんの宿泊スペース、そして「ぶらざ☆かだつて」と名前がついた多目的ホールがあります。地域の皆さんに幅広く利用していただける施設ということで、既に使用の予約が入っていました。

オープンハウスは、勇壮な只越虎舞でスタート！迫力満点の大虎と、かわいらしくも躍動感あふれる仔虎の舞に、お客さんたちから拍手喝采が送られました。豚汁、焼きそば、お好み焼きのお振る舞いに、子ども縁日、新しい建物の中をくまなく使ったの宝探しゲーム、ふいりあの常連の子どもたちによる元気いっぱいのソーランの披露、そして民謡ショーでは、地元の名人たちが、この日に合わせておめでたい歌を披露してくださいました。演奏者の方々は震災でご家族や自宅を失くし、それぞれ別の仮設住宅に住んでいるとのことでしたが、カリタス釜石のスタッフの声掛けで集まってくださったそうです。手拍子や歓声が響き、子どもから大人まで、皆さん楽しんでいらっしゃる様子でした。



とても珍しい白虎と仔虎の虎舞

にぎやかなイベントの合間、静かな教会の方にお邪魔すると、この日も「ほっこりすぺーす・ふいりあ」は開いていました。(＊ふいりあ…どなたでも利用できる喫茶スペース。今後もこれまで通り教会の信徒館で続けるそうです。) そっとのぞくと、座っていた常連の方が「どうぞ！」と招いてくださり、中を案内してくださいました。皆さんが作った手芸作品やこれから新しい作品になる材料の数々、子どもたちが何人も一緒に弾いているというピアノなど…ご案内いただきながら、「いつも入れるっていうのが一番良いんです。それが一番なの！」とふいりあについて語ってくださいました。

この日は宮古、大船渡のカリタスペースから応援がかけつけ、また、釜石教会の信徒の方々や普段ふいりあを利用しているの方々も、カリタス釜石のスタッフ、ボランティアさんと一緒にイベントを支えてくださっていました。スタッフと、いらっしゃる方々がごく自然に声を掛け合い、子どもたちとふれあっている様子から、カリタス釜石が地域に溶け込み、「ご近所さん」として受け入れられているのを感じました。

新しい拠点でさらに活動の幅が広がっていくことと思いますが、これからも地域の皆さんとともに進んでいくことができますように。

CTVC カリタス原町ベース 開所2周年記念イベント

CTVC カリタス原町ベース 畠中 千秋 (聖心会)

CTVC カリタス原町ベースは、6月1日で2周年を迎えました。当日は、晴天に恵まれ、最高気温が29度のとても暑い日となりましたが、教会の方々、仙台教区の方々をはじめ、近隣の方々や仮設住宅にお住まいの方々など、約200名という大勢の方々がベースへ足ををこんでくださりました。



イベントでは、足湯、歌や演奏、持ち帰りコーナー、食べ物の提供などを行いました。参加された方々は、談笑したり、地元の方々の笛や太鼓の生演奏をバックに相馬盆唄を歌ったり、踊ったり、美味しいものを食べたりと、思い思いに楽しい時間を過ごしていただけたようです。

スタッフが予想していた以上の方々にお集まりいただき、笑顔で帰って行かれたことが何よりでした。

原町ベースは、この1年間、地域の方々に後押しをされながら、仮設住宅集会所のサロン活動や、避難指示解除準備地区での家の内外の片づけ活動などに、全国各地から来られるボランティアさんたちをおつなぎしてきました。

まだまだ、この活動は続いていきますので、今まで来たことがない方もぜひ、一度は来て見てください。

これまで支えていただいた皆様に感謝を申し上げます。そして、これからも原町ベースを、どうぞよろしくお願いします。



仙台教区滞日外国人支援センター移転

仙台教区滞日外国人支援センター 林 愛子

5月15日、仙台教区滞日外国人支援センターの事務所が、大船渡教会からカリタス石巻ベースへ移転いたしました。

活動内容は今までと変わりありません。が！ 協力司祭であるハルノコー・アントニウス神父様が淳心会の異動により支援センターから離れたため、今まで2人で行っていたことを、ゲストヴェオ・ギャリー神父様1人でやらなければなりません。さらに、仙台教区での新しい地区制度が、始まってまだ間もないということから、各小教区の神父様方とのスケジュール調整などの連携が、まだまだ難しいのが現状です。そのため、月1回のタガログ語・英語・インターナショナルミサの予定変更が考えられます…。



石巻ベースの布ぞうり作りに参加したギャリー神父様

と、書きましたが、ミサ以外に「何やっているの〜？」と思われる方も多いでしょう。例えば、教会での日本語教室、病気や子どもさんのいる家庭など困っている方への支援物資配布・家庭訪問、石巻も港町で外国から船が入るため船員司牧など…。

支援センターは東日本大震災で被害を受けた滞日外国人の方々に必要な生活支援を行うため、被災地にある教会やベースなどと協力し、みんなと共に歩むことによって、適切な復興に向かっていけるよう支援し、海外からきた兄弟姉妹が日本社会の中で暮らしやすい環境をつくることできるように活動し、現在に至っています。

しかし、まだまだ支援センターの存在を知らない方々も多く、「え！何それ？」と思われる方もいらっしゃると思いますが、少しずつでも多くの人と関わっていけるように活動していきたいと思っていますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

仙台教区滞日外国人支援センターの活動の様子は、こちら↓をご覧ください。

<http://sendaisupportcenter.blogspot.jp/>

「フランスフェア」 in 石巻

仙台教区滞日外国人支援センター 林 愛子

6月21・22日、石巻駅前にぎわい広場で「フランスフェア」が行われました。

このフェアに参加するきっかけは、私のマンションから石巻ベースの通勤途中にある雑貨屋さんにふらりと入ったこと。まだ大船渡から引っ越し



して間もない石巻で知り合いもそれほどおらず、お店も知らない。そんな中、気になるお店が通勤途中に…入ってみると、かわいい雑貨があり、店長さんにこのフランスフェアのお話を聞きました。その時に「フランス人の友達はいない？」「音楽できる人いない？」と聞かれ、心当たりがあったことで、今回参加させてもらうことになりました。



フランス人の(フランス語が話せる)友達は、仙台にいる「心の港」のフランス出身のレイミッションナリー(信徒宣教者)、オタワ愛徳修道女会のカナダ・オタワ出身のシスター。音楽ができる友達は、大船渡教会の信者さんがチェロ、そのお友達がフルート、そして石巻ベースのスタッフさんがピアノ！ さらに今、一関で日本語を勉強しているフィリピンの方々も、フィリピンのスナックやジュースの販売で参加してくれることに！

この「フランスフェア」という名の復興市は、被災した方が発案・出店しており、石巻のみんなに普段とは違う楽しい時間を過ごしてほしい！ということですので7回目。でも、今までフランスフェアなのにフランス人がいなかったということで、今回初！



地元の方々はもちろん、石巻教会からミサ後にカナダ・ケベック出身のレイモンド・ラトゥール神父様や信者さんが来てくださったり、同じ被災沿岸部の大船渡から3時間かけて来てくれた友達がいたり、石巻のフィリピンの方が一関のフィリピンの方々とつながったことなど、この2日間のイベントを通してたくさんの出会いがありました。そして、たくさんの笑顔にも出会え、人と人とのつながりって本当に素晴らしいなあ〜と、シャボン玉の中をはしゃいで駆け回る子どもたちを見ながら1人感動しつつ、快く応じてくれたみんなに声をかけ、感謝の気持ちでいっぱいになりました。



～「福島デスクニュース」発行のお知らせ～

福島デスクでは、これまで3ヶ月に1度のペースで「福島デスク」ニュースレターを発行していましたが、福島市に拠点を移したことを契機に、6月より表題も新たに「福島デスクニュース」として、毎月発行するようになりました。福島に特化した内容となっており、こちらのニュースレターでは紙面の関係上、取り上げることのできない細かな内容も含まれております。

「福島デスクニュース」は、福島デスクのブログに掲載する予定になっておりますので、ぜひ一読くださいますようお願いいたします。

なお、「福島デスクニュース」の英語版とスペイン語版もございますので、こちら、「福島デスク」のブログをご覧ください。

「福島デスク」のブログは、こちら↓をご覧ください。

<http://fukushimadesk.blogspot.jp/>